

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院生研究
2013年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	21世紀社会デザイン研究科	比較組織ネットワーク学専攻
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	21世紀社会デザイン研究科比較組織ネットワーク学専攻前期過程2年	水上 詩音	印
指導教員	所属・職名	氏名	
	21世紀社会デザイン研究科 教授	内山 節	印
自然・人文・社会の別	自然 ・ 人文 ・ 社会	個人・共同の別	個人 共同 名
研究課題名	世界に輸出されているストリートファッションの起源と現在		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	21世紀社会デザイン研究科比較組織ネットワーク学専攻前期過程2年	水上 詩音	
研究期間	2013 年度		
研究経費	(支出金額) 195 千円	／ (採択金額)	200 千円

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

広報文化外交のファッション分野として、外務省が取り上げたのは、制服ファッション、原宿ファッション、ロリータファッションの3つである。この中で、特に存在感を持つロリータファッションについて、広報文化外交に取り上げられる前と後の違いについて調査した。これにより、ポップカルチャーを用いた外交にストリートファッションを取り入れたことが、日本文化の理解にどのように影響したかについて考察した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[広報文化外交] [ロリータファッション] [オタク文化、「コスプレ」からの忌避]

研究成果の概要（図・グラフ等は使用しないこと。）

広報文化外交の目的は、外交政策を円滑かつ効果的に展開するために、諸外国の一般国民層における対日理解を促進し、日本に対するイメージや親近感を高めることである。これは、近年、インターネットをはじめとする情報通信技術の飛躍的發展や各国における民主化の進展等により、一般市民層が外交政策に与える影響力が増大していることが背景にある。外務省は、アメリカ合衆国の政治学者ジョセフ・ナイのソフトパワー論に着目し、日本のポップカルチャーにより、国際社会において外貨獲得や日本の地位向上を目指している。これにより、日本の伝統文化のみならず、ポップカルチャーをはじめとする多面的な日本の魅力が諸外国に紹介されている。

外務省は2009年2月に、ポップカルチャーのファッション分野で顕著な活動を行っている若手リーダーに3名にポップカルチャー発信使（通称 カワイイ大使）の名称を付与した。そしてその3名に広報関連業務等を委嘱するとともに、可能な範囲で、在外公館及び国際交流基金が実施する文化事業への協力を求めることとした。その3名とは、原宿系ファッションの代表的な存在である木村優、ブランド制服ショップ CONOMi のアドバイザーである藤岡静香、そしてロリータファッション界のカリスマである青木美沙子である。

ロリータファッションとは、ヴィクトリアン朝時代を中心に、バロック、ロココ、といった確実な歴史の記録をもとに、懐古的でありながらも全く新しい日本独自の解釈を加え作られた。すなわち、欧米の過去の衣服をモチーフにした、日本のファッションである。様々な種類のレースや、フリル、ピンタックなどにより、少女のあどけないかわいらしさや、小悪魔的な魅力が表現されている。浮世離れした印象をもたれがちではあるが、動きやすさなどの機能性もあり、現代でも少女のおしゃれ着として一般的なハイウエストタイプのワンピースはロリータファッションとしても定番のスタイルである。このハイウエストワンピースは、ヴィクトリア朝後期の人気絵本画家であるケイト・グリーナウェイが作品内に描いたことで長期的な人気を得たものである。19世紀半ばに流行したバスルスタイルやクリノリンスタイルを再現しているものもあるものの、足の露出を下品としていた中世ではありえないミニ丈のスカートが主流である。しかし、ミニスカートといっても、80年代から90年代にかけて流行した太腿中央やそれよりも短い丈は受け入れられない。それに加えて、ソックスを履く事、ドロワーズを着用することは暗黙のルールとなっており、露出を避けようとする文化が残っていることは注目に値する。ロリータファッションは、原宿系ファッションの一つである。ポップカルチャー発信使選出の際に原宿系ファッションリーダーとは別にロリータファッションのカリスマモデルが選ばれたのは、外見が目立つという理由も大きいのかもしれないが、明確な歴史的背景を持ちつつ現在に存在しているという存在感があり、諸外国にも受け入れやすいと考えたのではないかと考えられる。

もともと、ロリータファッションは、日本国内では好意的に受け止められることが少ないファッションだった。特異的な外見に加え、「ロリータ」という語のイメージや、河内長野市家族殺傷事件などの、過去の事件の報道により、誤った認識が広まっていたためである。例えば、ロリータファッションが性的な衣服だという誤解は、「ロリータファッション」の語源に深くかかわっている。

研究成果の概要 つづき

ロリータファッションの「ロリータ」は、ウラジーミル・ナボコフの『ロリータ』に由来している。これは、中年の文学者の視点で、思春期の少女の性的な魅力を描いたことで、社会に衝撃を与えた作品である。主人公を魅了した少女の魅力に囚んだものだろうが、日本では、「ロリータ」と言うと、魅力的な乙女の意味合いを離れ、男性の性的指向としてのロリータコンプレックス（ロリコン）のイメージが強い。この認識が定着したのは、1988年の東京・埼玉連続幼女誘拐殺人事件の後である。この事件は、4歳から7歳という低い年齢の女兒が被害者となったことがセンセーショナルだった。犯人の異常な行動が話題となり、その残虐性、異常性から警察庁広域重要指定事件（117号事件）に指定されている。幼女が執拗にターゲットにされたことから、欧米を中心に多発する児童への性的暴行を目的とした誘拐、殺害事件との比較も行われた。マスコミは、彼の趣味嗜好をロリータコンプレックス（略称、ロリコン）として報道した。犯人である宮崎は、抵抗や反撃の可能性が低いという理由で幼女をターゲットにしたのであり、精神鑑定の結果、小児性愛者ではないとのことである。それにもかかわらず、同事件の犯人はロリコンであるというイメージが強い。これらの報道により、「ロリータ」コンプレックス、「ロリ」コンという単語は、本来の意味を離れ、計り知れないほどのマイナスイメージを帯びて世間に印象付けられた。ロリータファッション着用者は、いわれなき差別を受けることもあったが、同ファッションに対する愛好心により、工夫をして着用を続けていた。そういった工夫は、着用者たちの暗黙の了解として根付いていった。

世界的な「カワイイ」の流行は、このようなイメージを払拭するほどのインパクトがあった。ポップカルチャー発信史の活動と、原宿系ファッションモデルであり、歌手である、きゃりーぱみゅぱみゅのデビュー、ブレイクも伴い、ロリータファッションは世界的に知名度を上げた。日本国内での好感度も、それ以前に比べて上がった。しかしながら、広報文化外交のツールとして取り上げられたことにより、ロリータファッション着用者には新たな問題が浮上した。ポップカルチャー外交は、漫画やアニメ、コスプレを扱っていたために、それらとの混同が起きたのである。ロリータファッション着用者は、自分がそうではないにもかかわらず、所謂オタクとして扱われることに戸惑いを感じていた。また、多くの人がそうしているように、自分が好きなものをコーディネートして着ているだけなのに、コスプレ（＝誰かの真似）とされることに納得がいかなかった。興味本位で着用を始めた人たちの中にはロリータファッションの暗黙の了解を守らず、おかしい組み合わせをしているものもいた。またそういった人たちがマナーを守らないことにより、もともとの着用者が肩身の狭い思いをすることもあった。ロリータファッションが日本の文化だというのなら、ポップカルチャー外交はそれを正しく発信できなかったのである。

また、ロリータファッションの正規ブランドの商品は、凝った作りをしているものが多いため、あまり安価なものはない。そこで、より安価な類似品が出回り、ロリータファッションの認知度アップに伴い市民権を得つつある。正規ブランドの模倣品や、コスチュームプレイ用の服として作られたものの中には、製法が悪く、縫われていないところがあったり、全体のバランスがおかしかったり、トルソーに着せただけでほつれてしまったりものもある。その原因は、布の裁断の時点で雑な処理をしたためにパーツのラインがずれていたり、縫い合わせる時点での処理が適切でなかったり、生地節約のためか縫い代をほとんど取っていないためである。こういった、日常の着用に堪えない商品が、日本の文化の代表的な存在として国内外に出回るのには、日本のイメージダウンにつながりかねないのではないだろうか。また、そういった商品の多くは外国製である。外貨獲得という面ではロリータファッションは意味をなさないように思える。

日本に対して興味関心を持ってもらうという意味ではポップカルチャー外交は、成功したともいえる。“Kawaii”は、諸外国でも通じる単語となり、日本文化が理解されたとも考えられる。しかしながら、ロリータファッションについて言えば、外交のツールとなったことでファッションの世界観が変容してしまった。日本のイメージアップや外貨獲得という意味ではポップカルチャー外交にファッションを取り入れたことが成功かという点、疑問が残る。

を記入した調書（A4縦型横書き1枚・自由様式）を添付すること。

（様式3）

立教SFR－院生－報告

研究発表（研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。）

- ①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
- ②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
- ④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

特になし